

新しいミレニアムを迎えて

常務取締役 鈴木 繁



記念すべき西暦2000年となりました。2000年代は、価値観の多様化した、全体像の見えない、予測不可能な時代と言われています。

1900年代の最後の10年間には、このことを予兆する二つの大きな変化が見受けられました。一つは、冷戦構造の崩壊と社会主義国家の市場経済への移行に伴う経済の国際化・ボーダレス化の進展です。

また、もう一つは、情報産業分野の飛躍的な発展であります。デジタル技術とこの5年間に急速に進歩したインターネットを中心とするネットワーク技術とが相乗し、ボーダレス化を加速しています。

当社は、このような急激な事業環境の変化を好機と捉え、これにスピーディに対応すべく、昨年6月に大幅な経営機構改革を断行しました。

その概要は、小さな本社組織とコンシューマーイメージングカンパニー、メディカル&グラフィックカンパニー、オフィスドキュメントカンパニー、オプトテクノロジーカンパニーの4つの社内カンパニーの発足です。

当社のドメインは、コンシューマー・メディカル・グラフィック・オフィス市場のイメージング領域ですが、各領域でデジタル技術の荒波が押し寄せています。しかもそれは、当社の強みを発揮できる高画質な技術領域まで及んでいます。

しかし、この領域では、当社のデジタル画像入力技術・光学技術・画像処理技術・ハードコピー材料技術が武器となります。これらの技術がネットワーク技術と融合し、従来製品の枠を越えた大きなビジネスになると期待されます。

したがって、当社のドメインでの技術開発こそが新しいミレニアムで発展する鍵となるでしょう。イメージング領域での豊かな発想の技術開発が、感動を創造する商品・サービスを提供できると信じて疑いません。

メディカル&グラフィックカンパニーでは、「技術立国」ならぬ「技術立社」たらんことを目指しております。本特集のメディカル分野でもデジタル化・ドライ化が急進展しており、古く19世紀後半に起源を有するレントゲン写真の領域にも情報化の革命が起きつつあります。DICOM(Digital Imaging and Communications in Medicine)規格は、ネットワークの国際標準として、レントゲン写真のデジタル化と共にこれを押し進めるにちがいません。

本号に掲載された基礎的な研究から商品開発に関する種々の論文が、少しでも皆様方の参考となり、また、コニカの技術開発に関する取り組みについて、ご理解いただければ幸いです。